

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：1月レポート

稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 主席研究員）
野村亮輔（研究推進部）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●2月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表1)、**1月の訪日外客総数(推計値)は46,500人で、16カ月連続のマイナス(前年同月比-98.3%)**。12月下旬以降、入国制限が厳格化されたため、水準は前月(58,700人)から減少した。

▶訪日外客数を国・地域別にみると、**トップ5はベトナムが20,000人、中国が10,200人、韓国が2,500人、米国が1,200人、フィリピンが1,000人であった**。ベトナム、中国の訪日外客数は3カ月連続で1万人を超えた。

▶上記の国・地域の訪日外客数の伸びをみると、ベトナム、フィリピンは11カ月連続、中国、米国は12カ月連続、韓国は19カ月連続の前年比マイナス。ベトナム(同-60.3%)以外の国・地域では依然90%を超える減少となっている。

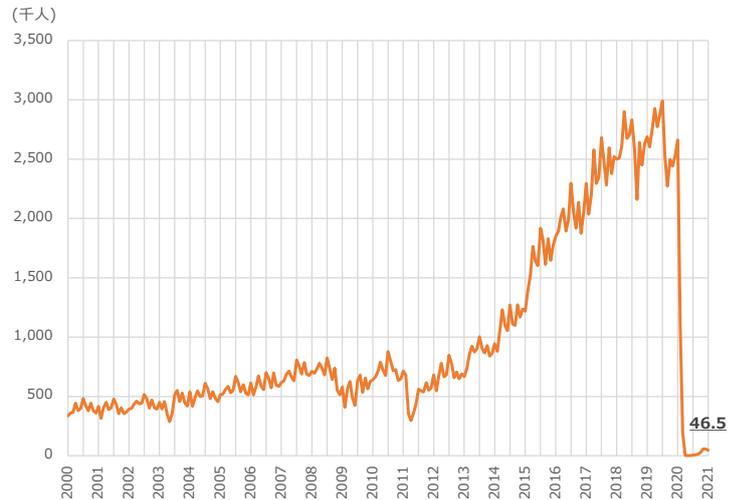
▶11カ国・地域の間で例外的に認可されていたビジネス目的などの往来が1月14日から一時停止となった。また2月2日に緊急事態宣言再発令の期間が3月7日まで延長されたことで、入国制限の措置も継続となった。このため訪日外客数の動向については厳しい状況が続こう。

▶JNTO 訪日外客統計を目的別にみれば(図2及び表2)、**11月の総数(暫定値)は56,673人(前年同月比-97.7%)**となった。うち、**観光客は1,030人(同-100.0%)**、**商用客は4,793人(同-97.2%)**、**その他客は50,850人(同-59.0%)**であった。11月にベトナムや中国との間でビジネスや留学目的などの入国条件が緩和されたこともあり、その他客は前月(24,038人)から大幅増加している。

▶伸び率を見れば、**観光客、商用客は14カ月連続、その他客は10カ月連続といずれも前年比マイナスが続く**。

▶目的別国・地域別のトップ5をみれば、11月の**観光客**は**米国が278人、中国が135人、韓国が89人、フィリピンが44人、台湾が42人**であった。**商用客**は**中国が1,097人、韓国が916人、ロシアが423人、台湾が343人、マレーシアが201人**であった。**その他客**は**中国が16,915人、ベトナムが14,623人、インドネシアが3,354人、韓国が1,820人、フィリピンが1,572人**であった。うち、中国とベトナムの訪日外客数は前月(中国：4,024人、ベトナム：6,056人)からいずれも大幅増加した。入国緩和の影響で、留学生や技能実習生などが増加したと考えられる。

図1 訪日外客数推移

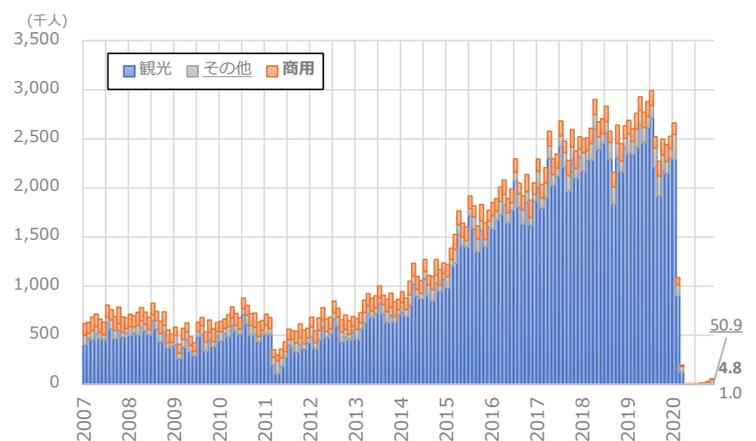


出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注) 2019年：確定値、20年1～11月：暫定値、

20年12月、21年1月：推計値

図2 目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注)「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

*本レポートで使用している観光庁「訪日外国人消費動向調査」の統計調査が現在行われていないため、2020年11月公表分レポートより内容を一部変更していることにご留意頂きたい。

トピックス 1

● 1月関西の財貨・サービス貿易の動向

▶ 1月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は**10,919人**であった(前年同月比-98.5%)。伸びは12カ月連続のマイナスで、マイナス幅は前月(同-97.9)から幾分拡大した(図3及び図4)。なお、前述の通り緊急事態宣言再発令の期間延長に伴い入国制限が続くため、関空への訪日外客数は依然厳しい状況が続こう。

▶ 同月の日本人出国者数は4,634人で同-98.3%と13カ月連続で減少。アウトバウンド需要は依然低迷している。

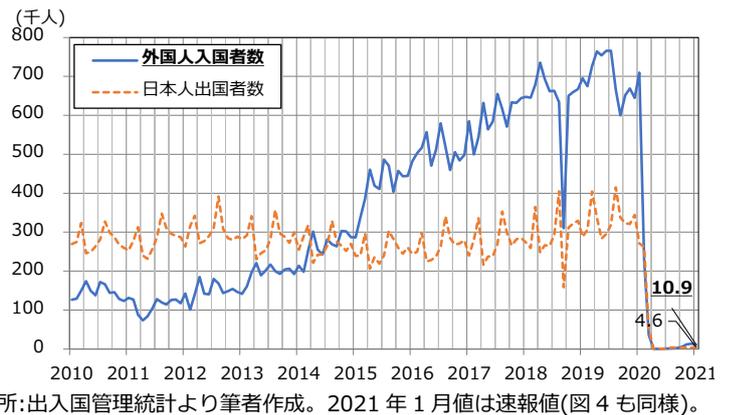
▶ 関空への訪日外客数減少によるインバウンド需要の損失額を試算してみる。2019年の2府8県の外国人消費額(確報ベース)は1兆2,127億円であるため(APIR推計)、21年1月の損失額は995億円(=12,127/12×関空への訪日外客数の減少率)と推計される。**結果、20年2月から21年1月までのインバウンド需要の損失合計は1兆1,662億円で、19年の外国人消費額の96%と推計される。**

▶ 図4は関空訪日外客入国者数の動態をリーマンショック期、東日本大震災期と今回の3つの時期で比較したものである。COVID-19のショックが発生してから1年が経過したが、訪日外客数は依然底這いで推移している。さらに緊急事態宣言再発令により、例外的に入国が緩和されていた国・地域に対しても入国制限措置が厳格化されている。仮に緊急事態宣言が解除されたとしても、早期の入国緩和が望めないため、当面のインバウンド需要は低迷が続こう。

▶ 関西1月の輸出総額は対中輸出の伸びの拡大もあり、**前年同月比+13.3%**で**2カ月連続のプラス**(前月:同+5.2%)。輸入総額は同-8.4%と16カ月連続のマイナス(前月:同-8.9%)。結果、関西の貿易収支は1,316億円と12カ月連続の黒字となった。また、貿易総額(輸出入合計)は同+1.9%となり、2019年9月以来のプラスに転じた(前月:同-1.4%)(図5)。

▶ 対中貿易動向をみると(図6)、関西1月の**対中輸出額は前年同月比+40.0%**と**8カ月連続のプラス**。昨年の春節が**1月であったこともあり、伸びは前月(同+8.3%)から大幅上昇した**。プラスチックや半導体等製造装置などが輸出増に寄与した。中国国内におけるテレワーク需要の増加や、経済活動の回復による集積回路への需要の高まりが影響したようである。一方、対中輸入額は同-2.4%で2カ月連続のマイナス。

図3 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。2021年1月値は速報値(図4も同様)。

図4 経済ショックからの回復の比較

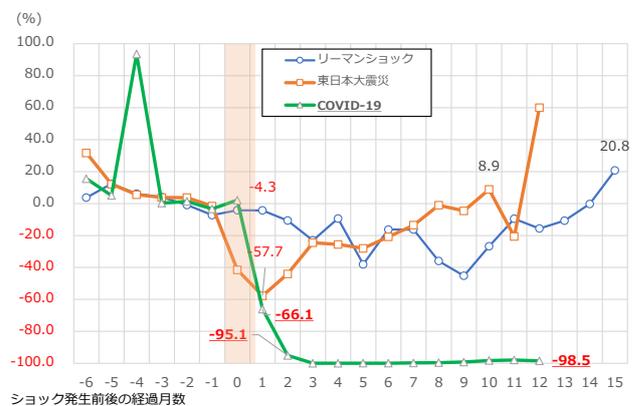


図5 関西 対世界貿易の推移

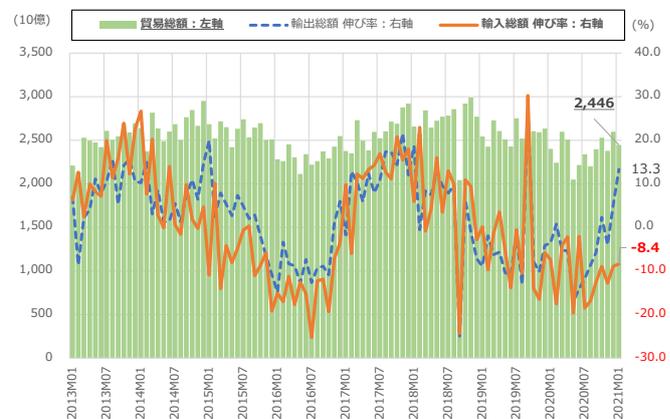
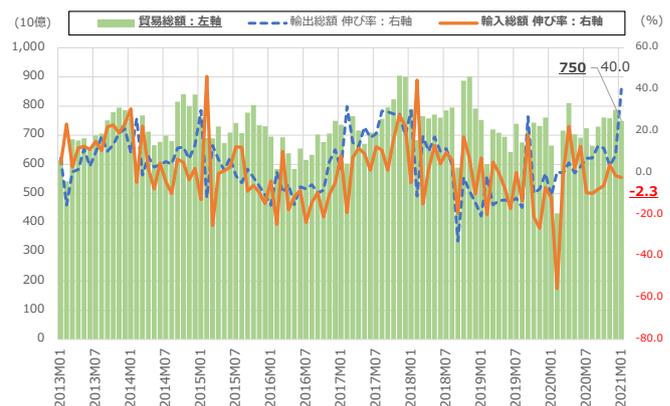


図6 関西 対中貿易の推移



出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

トピックス 2

●11月 延べ宿泊者数の動向：関西 2府 8県

▶11月の関西 2府 8県の延べ宿泊者数(全体)は10カ月連続の前年同月比マイナス(同-36.0%)だが、Go To トラベルキャンペーンの影響もあり、マイナス幅は前月(同-45.2%)から縮小した。ただし、12月14日にGo To トラベルキャンペーンが全国的に停止されたため、来月以降、マイナス幅が拡大する可能性が高い。

▶うち日本人延べ宿泊者数をみれば、6,835.9千人泊で、2019年12月(7,363.2千人泊)以来の水準となった。伸び率は11カ月連続の前年同月比マイナス(同-14.8%)だが、前月(同-23.5%)からマイナス幅は縮小(図7)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、京都府が1,778.6千人泊(同+2.6%)、大阪府が1,730.1千人泊(同-33.1%)、兵庫県が1,049.1千人泊(同-5.0%)、三重県が658.6千人泊(同-7.3%)、和歌山県が406.2千人泊(同-6.2%)、滋賀県が324.5千人泊(同-20.5%)、福井県が301.2千人泊(同-14.4%)、鳥取県が243.1千人泊(同-6.3%)、奈良県が182.1千人泊(同-14.1%)、徳島県が162.6千人泊(同-26.4%)であった(図8)。京都府は11カ月ぶりのプラスに転じ、和歌山県を除く府県ではいずれも、前月からマイナス幅が縮小した。

▶うち外国人延べ宿泊者数をみれば、112.6千人泊となり10カ月連続の前年同月比マイナス(同-96.0%)で、依然底這いの状況が続く(図9)。府県別に外国人延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府が74.9千人泊(同-94.7%)、京都府が20.5千人泊(同-98.1%)、兵庫県が5.0千人泊(同-95.5%)、和歌山県が3.0千人泊(同-95.3%)、滋賀県が2.6千人泊(同-93.6%)、三重県が1.9千人泊(同-94.5%)、徳島県が1.6千人泊(同-89.6%)、鳥取県が1.4千人泊(同-92.2%)、福井県が1.1千人泊(同-88.8%)、奈良県が0.5千人泊(同-98.9%)であった(図10)。

▶11月の延べ宿泊者数(関西 2府 8県ベース)の減少幅から(関西の)国内旅行消費額の損失額を推計すると、約508億円となる(=4.1兆円/12 × 関西の延べ宿泊者数の当月の減少率)。結果、3-11月期の損失額は約1.6兆円となる。また、12月速報値を考慮した延べ宿泊者数(全国ベース)の減少幅から(全国の)国内旅行消費額の損失額を計算すると、約4,459億円となる(=21.9兆円/12 × 全国の延べ宿泊者数の当月の減少率)。結果、3-12月期の損失額合計は約8.4兆円となる。

図7 関西 日本人宿泊者数の推移

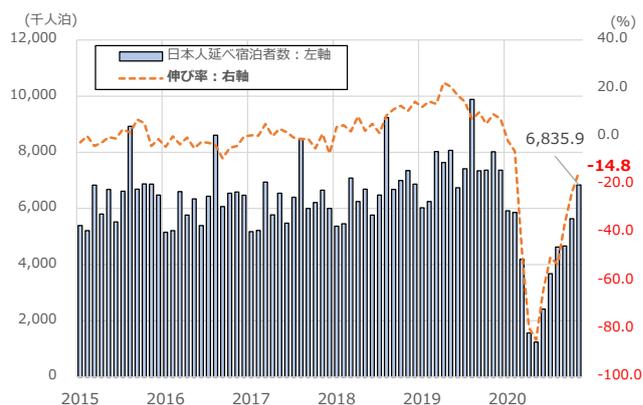


図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

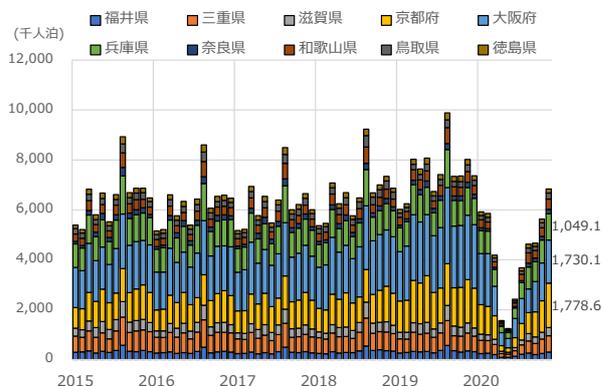


図9 関西 外国人宿泊者数の推移

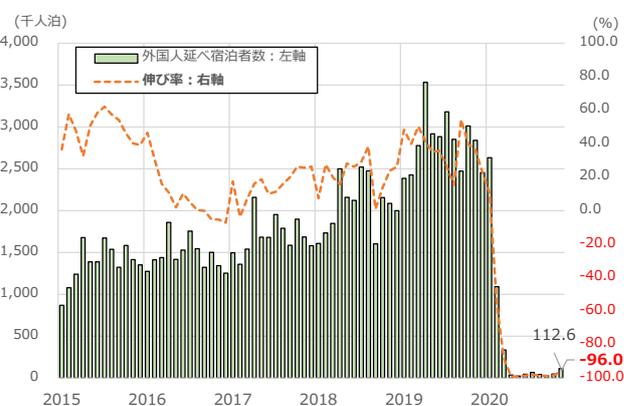
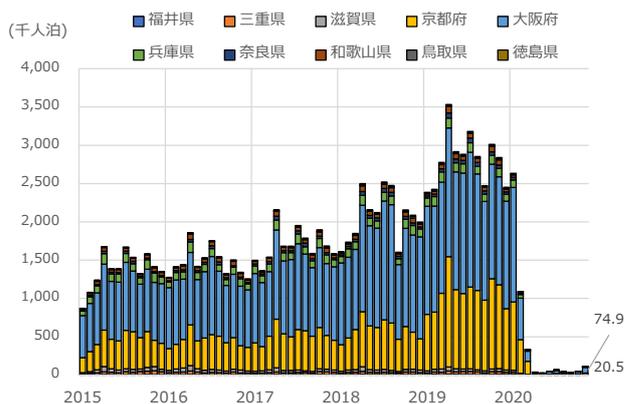


図10 府県別外国人延べ宿泊者数 推移



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図7~10)

表1 2021年1月 訪日外客数 (JNTO 推計値)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2020年	2021年	伸率(%)	2020年	2021年	伸率(%)
	1月	1月		1月	1月	
総数	2,661,022	46,500	-98.3	2,661,022	46,500	-98.3
総数(韓国・その他除く)	2,257,062	38,150	-98.3	2,257,062	38,150	-98.3
韓国	316,812	2,500	-99.2	316,812	2,500	-99.2
中国	924,790	10,200	-98.9	924,790	10,200	-98.9
台湾	461,239	600	-99.9	461,239	600	-99.9
香港	219,358	200	-99.9	219,358	200	-99.9
タイ	112,534	700	-99.4	112,534	700	-99.4
シンガポール	30,180	90	-99.7	30,180	90	-99.7
マレーシア	44,829	200	-99.6	44,829	200	-99.6
インドネシア	37,540	900	-97.6	37,540	900	-97.6
フィリピン	53,588	1,000	-98.1	53,588	1,000	-98.1
ベトナム	50,424	20,000	-60.3	50,424	20,000	-60.3
インド	13,884	900	-93.5	13,884	900	-93.5
豪州	85,314	100	-99.9	85,314	100	-99.9
米国	117,343	1,200	-99.0	117,343	1,200	-99.0
カナダ	28,931	100	-99.7	28,931	100	-99.7
メキシコ	4,641	60	-98.7	4,641	60	-98.7
英国	24,320	300	-98.8	24,320	300	-98.8
フランス	16,481	600	-96.4	16,481	600	-96.4
ドイツ	11,189	400	-96.4	11,189	400	-96.4
イタリア	6,921	200	-97.1	6,921	200	-97.1
ロシア	8,399	200	-97.6	8,399	200	-97.6
スペイン	5,157	200	-96.1	5,157	200	-96.1
中東地域	4,265	100	-97.7	4,265	100	-97.7
その他	82,883	5,750	-93.1	82,883	5,750	-93.1

表2 2020年11月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)
	11月	11月		11月	11月		11月	11月		11月		
総数	2,441,274	56,673	-97.7	2,145,425	1,030	-100.0	171,723	4,793	-97.2	124,126	50,850	-59.0
韓国	205,042	2,825	-98.6	164,558	89	-99.9	24,167	916	-96.2	16,317	1,820	-88.8
中国	750,951	18,147	-97.6	676,675	135	-100.0	36,519	1,097	-97.0	37,757	16,915	-55.2
台湾	392,102	1,177	-99.7	374,926	42	-100.0	11,285	343	-97.0	5,891	792	-86.6
香港	199,702	453	-99.8	194,857	6	-100.0	3,610	73	-98.0	1,235	374	-69.7
タイ	140,265	1,035	-99.3	134,178	12	-100.0	3,700	163	-95.6	2,387	860	-64.0
シンガポール	65,295	161	-99.8	61,188	15	-100.0	3,749	81	-97.8	358	65	-81.8
マレーシア	64,987	430	-99.3	61,118	5	-100.0	3,041	201	-93.4	828	224	-72.9
インドネシア	37,213	3,424	-90.8	30,129	14	-100.0	3,538	56	-98.4	3,546	3,354	-5.4
フィリピン	64,763	1,704	-97.4	57,552	44	-99.9	2,910	88	-97.0	4,301	1,572	-63.5
ベトナム	41,892	14,730	-64.8	18,580	28	-99.8	4,443	79	-98.2	18,869	14,623	-22.5
インド	14,863	1,038	-93.0	5,855	8	-99.9	6,190	59	-99.0	2,818	971	-65.5
豪州	48,327	255	-99.5	42,991	13	-100.0	3,521	38	-98.9	1,815	204	-88.8
米国	148,993	1,091	-99.3	123,839	278	-99.8	20,448	162	-99.2	4,706	651	-86.2
カナダ	33,316	134	-99.6	29,873	35	-99.9	2,462	19	-99.2	981	80	-91.8
メキシコ	6,494	57	-99.1	5,858	2	-100.0	484	15	-96.9	152	40	-73.7
英国	37,709	304	-99.2	30,045	28	-99.9	5,894	77	-98.7	1,770	199	-88.8
フランス	24,290	473	-98.1	18,391	41	-99.8	4,510	76	-98.3	1,389	356	-74.4
ドイツ	19,525	343	-98.2	12,361	32	-99.7	6,078	130	-97.9	1,086	181	-83.3
イタリア	12,350	131	-98.9	9,282	15	-99.8	2,557	24	-99.1	511	92	-82.0
ロシア	13,142	671	-94.9	9,282	30	-99.7	3,012	423	-86.0	848	218	-74.3
スペイン	10,535	101	-99.0	9,128	5	-99.9	1,027	27	-97.4	380	69	-81.8
中東地域	9,836	163	-98.3	7,970	9	-99.9	1,372	22	-98.4	494	132	-73.3
その他	99,682	7,826	-99.9	66,789	144	-100.0	17,206	624	-100.0	15,687	7,058	-99.6

出所: 日本政府観光局(JNTO)、2021年2月17日付より筆者加工

注) 目的別訪日外客数の定義については、図2注参照。